



令和7年6月17日

ウクライナ情勢を自分事として考える
～ ウクライナ人大学准教授と学生が宮崎大学で講演 ～

この度、ウクライナから、キーウ・モヒーラ・アカデミー国立大学准教授のコヴァル・ドミトロ准教授（国際法研究者）と、イヴァン・フランコ記念国立リヴィウ大学の学生であるボルスク・オレクサンドラさん（国際関係学部2年）をお招きして、下記のとおり講演会を実施することとなりましたので、御案内いたします。（詳細は別添チラシ）

ロシアによるウクライナ全面侵攻が始まって4年が経過しました。ロシアによるウクライナ全面侵攻は、1万人を超える民間人死者をはじめウクライナ1国に甚大な損害を与えたことはもちろん、国際情勢を大きく不安定化させ、現代社会において共有されていたはずの法の支配や主権尊重といった概念を揺らがせる事態となっています。

侵攻の長期化により、国際社会の対応が揺らぐ中、今回の講演は国際問題や平和の在り方を中立的な立場で考える機会としていただくとともに、ウクライナ情勢について「自分事」として捉え、グローバルな視点で行動するきっかけを提供したいと考えています。

つきましては、取材についてご検討いただければ幸いです。

記

○日時：令和7年7月2日（水） 14:50 から 16:30

○会場：宮崎大学附属図書館3階「komorebi」

○講師：コヴァル・ドミトロさん キーウ・モヒーラ・アカデミー国立大学准教授

＜演題＞ ウクライナ戦争—国際社会の責任と講和の展望

ボルスク・オレクサンドラさん イヴァン・フランコ記念国立リヴィウ大学国際関係学部2年

＜演題＞ 戦時下の大学生活と日本からの学び

○言語：英語（質疑応答時、日英逐次通訳あり。コヴァルさんの講演内容は事前に日本語で配布します。ボルスクさんは日本語でも講演予定です。）

○対象：県内高等教育機関等に在籍する学生・教職員

○その他：

・Zoom を利用したオンライン形式での参加もできます（ご希望の場合、以下のお問い合わせ先までお気軽にご連絡ください）。

・7月1日（火）16:00 までにご連絡いただければ、図書館横の駐車場を手配させていただきます。

・講演終了後（16:30-17:00）、講師への個別の取材も受け付けます。

お問い合わせ先 国際連携機構（准教授；岡田健裕） メール： okada-takehiro@cc.miyazaki-u.ac.jp TEL:0985-58-7430	発信元 企画総務部総務広報課 メール： kouhou@of.miyazaki-u.ac.jp TEL:0985-58-7114
--	--

ウクライナ情勢 特別講演

冷戦後の世界秩序の崩壊を決定づけたともされる、ロシアによるウクライナ侵攻。「今日のウクライナは明日の東アジア」とも言われ、「対岸の火事」とは言えません。若手研究者と現地学生が語るウクライナ情勢、ぜひ話を聞き、議論してみませんか？

【日時】 7月2日(水) 14:50~16:30

【場所】 附属図書館3階 komorebi

【対象】 県内大学等の学生、教職員の方

【言語】 英語(質疑応答時、日⇔英 逐次通訳あり)

【主催】 宮崎大学国際連携機構

講師紹介



コヴァル・ドミトロさん

【対面参加】

キーウ・モヒーラ・アカデミー国立大学准教授(国際法)

【演題】ウクライナ戦争－国際社会の責任と講和の展望

ウクライナ西部フリニツキー出身。オデーサ法科大学卒業・修了(Ph.D)。スタンフォード大学客員研究員を経て、「キーウ・モヒーラ・アカデミー」(1615年創立)を前身とする同大学で准教授を務める。その傍ら、NGO団体Truth Holdsの共同CEOとして、訴訟戦略を伴った戦争犯罪の記録保全活動を進める。NGO団体Project Expedite Justice(司法迅速化プロジェクト)の法律顧問も務める。

ボルスク・オレクサンドラさん

【オンライン参加】

イヴァン・フランコ記念国立リヴィウ大学国際関係学部2年

【演題】戦時下の大学生活と日本からの学び

ウクライナ中部ジトーミル州ベルディチフ出身。同市の第8学校在籍中、ロシアによるウクライナ 全面侵攻が勃発。ポーランドへの避難も経ながら勉強を続け、ウクライナ西部のリヴィウ大学に入学。幼少期から日本語・日本文化に関心があり、日本留学も視野に自主的な学習を継続している。



【事前申し込みはコチラから】

⇒



【お問い合わせ】

宮崎大学国際連携機構(担当:岡田)

電話: 0985-58-7430

メール: okada.takehiro[at]cc.miyazaki-u.ac.jp

※ [at]は@に置き換えてください